

# THE WEEKLY NEWS OF FUTTSU-CHUO

率先しよう Lead The Way

RI 会長 ウィリアム・ビル・ボイド



2006~2007

残心 に あり

富津中央 RC 会長 永島 強

国際ロータリー 第 2790 地区 富津中央ロータリークラブ 創立:1966/10/13 加盟承認:1966/12/12  
RI D2790 FUTTSU-CHUO ROTARY CLUB Organized : Oct./13/1966 Chartered : Dec./12/1966

## No.2007 第32回例会 2007. 3. 8 晴

点 鐘 : 永島 強 会長

進 行 : 榎本守男 SAA

ソング : 手に手つないで

### 会長挨拶

永島 強 会長

皆様今日は、今年は桜の開花が早まり、3月中に満開と予想されています。花見会の幹事さんは大変ご苦労のようです。入学式には桜がつきものですが、今年は卒業式の桜になるようです。しかし、桜は開花間近に一時寒くならないと咲かないとも聞いています。花見幹事でなくても見頃が心配になるこの頃です。

昨日、木更津東RCに卓話依頼があり例会に出席致しました。例会の進め方が私共とは随分と変わりがあり、勉強になりました。たまには他クラブの例会に参加も良いものだと思います。又、皆様と一緒に出向きましょう。

会長報告はありません。

### 幹事報告

大網庄一郎 幹事

1. 第24回RC富津市少年野球大会  
大貫少年野球チームが決勝で飯野チームを9:1で破り優勝しました。優勝チームの6年生が卒業式後、当クラブを訪問予定です。
2. 当クラブ例会変更  
3月22日(木)→3月25日(日)  
塩山RCにて移動例会。
3. 塩山RC来訪の件  
(1) 時期 4月中旬、又は、5月中旬  
(塩山RCで調整中)  
(2) 内容 潮干狩り後富津岬荘でバーベキュー
4. 塩山RC35周年記念式典  
交通手段、時間等については次週 3/15 例会で発表します。
5. 連絡事項  
(1) 第4分区ガバナー補佐よりインターミーティングの御礼を頂戴  
(2) 会長エレクト研修セミナー開催案内  
3月20日(火)13:30 点鐘  
ホテルニューオータニ幕張  
(3) 分区ゴルフコンペ組合せ着信



〒293-0042 富津市小久保2868

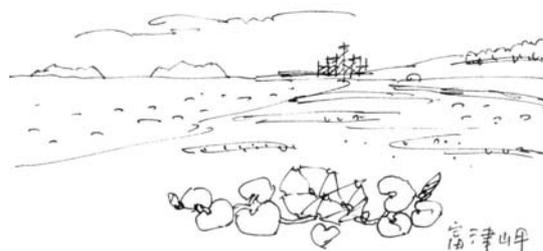
さざ波館

Sazanami-kan

2868 Kokubo Futtsu-shi Chiba-ken,

Zip code 293-0042

Tel.0439-65-3373 Fax 0439-65-3304



## プログラム

予定では、三枝会員の「世相から見たこの国の行方」と題した卓話であったが、都合で石渡プログラム委員長の「海南島ビデオ」上演に変更。時間いっぱい生ビデオを観劇勉強した。

## ニコニコBOX

三平榮男 親睦委員

石渡 鋼 海南島旅行記を週報に掲載

合計 2,000 円

## 出席報告

原田雅式 出席委員

区分	会員数	出席	欠席	MakeUp	出席率
今回	20	16	4		80%
前回	20	16	4		80%

## 海南島旅情(続き)

石渡 鋼 会員

やがて我々のバスは偉人とココ椰子の産地文昌市を後に 100km くらい南下地点にあるボアオ(漢字はあるが小生にはパソコンには出せない地名)に向かう。平坦でコンクリート舗装はしてあるが曲がりくねった狭い道路を隙あらば追い越そうと運チャン(台湾語)は飛バスいや飛ばす。ちなみにここではバス運転手のほうがガイドより地位が上だそうで、終始ガイド嬢は運チャンの機嫌を取りながら我々を案内せねばならず気の毒であった。おまけに道路の両側には巾 100m 位に行けども行けどもユーカリの樹が密植されており見通しの利かない事この上ない。あとで聞くにはこの街路樹を中国は紙幣の原料にしているそうだが、これこそ密林ドライブである。



ようやくにして視界が開けたところ、ボアオ到着ここは浜辺の純農村といった感じの村に突然にして国際会議場を含む大リゾート施設が2箇所と日本が寄贈したという中国様式の立派な、いや大きな禅寺が出現した感じ、なぜか千葉市にあるはずの「大賀ハス」がそこにあり、我等はそのひとつ金海岸スパリゾートホテル(英訳すればゴールドコーストか)に泊まる。



小泉首相の初期の頃ここでサミットが開かれたというが今はガランとして客は少ない。向かいには更に豪華な別のリゾートホテルが電力事情の悪いこの島なのに光々と輝やいている。そういえば事前の旅案内のなかにこの島は中国の要人の避寒地になっており冬はこちらでの会議が多く、彼等の移動等で観光予定が突然変わることもあるかもしれませんとあった。一日中バスに揺られての疲れと外に出ても何も無いところなので、ホテルの食堂で名物と言う鳥料理(食事は総じて美味であった。)を食し清しの夜となる。



明けて 14 日今日も快晴、またバスでの移動である。最初の見学地は興隆という高地のリゾートにある植物園、ここはこの旅を振り返って見学場所とし

ては一番ちゃんとしたところであった。カカオ、バナナ、胡椒、ドリアン、コーヒーもちろんいろいろの椰子のたぐい、それに極楽鳥花や他の熱帯の草花、これらが非常によく手入れされていて、やっとなどトロピカルアイランドに来ているのだという気分させられた。国内他、北欧系、韓国系等の観光客もたくさんいる。ところがこのあとバスで移動したところが良くない。予定にジャングルウォーキングとあったが、バスを降ろされて「さあ歩くんですよ」と言われた場所は鹿野山を湊方向から上がりはじめたところの感じ、右左は植林されたゴム林、地面はコンクリート(コンクリートジャングル?)、「どこがジャングルだ、岩入の方が凄いなぞ」の声には参った。案内嬢によると予定表にあることは必ず実行しないと、あとでクレームがついて「私責められる」だそうだ。



結局半数が待機組、半数が探検組?となったが、お人よしの愚生はガイド嬢を気使い探検組に。おかげで昼食を美味しく戴くことができた。

ジャングル?...猿や虎に遭遇ではなく数台の車とすれちがった...探検も事故なく無事おわり近くの苗族民族村見学と天然温泉?リゾートスパ体験となる。



この島は火山島でそこここに温泉が沸いているらしくそのうちの一番所にはいってみる。ロッカーで水着に着替え谷間に下りてゆくと学校のプールくらいの広さで椰子の木陰の下に火山岩で縁取られた池という感じの場所、効能はあちらの文字で分からぬが白くにごって、湯本近くは火傷するくらい熱く、また背が立たない深みもありご夫人がたは大変であった。衛生状態は日本のようにはいかぬが、ジャングルでかいた汗を流すには良い企画だと思直した。そのあとすぐそばの苗族村の家に案内される。土間敷きの薄暗い室内にかまどや食卓がありニワトリが出入りして小さい頃の我が家を思い出す。家のまわりは覚醒作用のある椰子の実「ピンロウ」の林、タロイモの葉陰から水牛が覗いていたりでこちらのほうがよほどジャングルらしい。



彼らはこのピンロウを売って暮らしてきたとのこと、しかし今は政府の保護下、素朴な家の脇には大きなパラボラアンテナが支給設置されたり、納税免除の恩恵があったり、また近くの温泉リゾート開発等で豊かになり、新しい家の建築もさかんであった。



もうひとつここで聞き捨てならない耳を疑うガイドさんの言葉、田んぼの苗代でひとり苗を取っている



女性を指して「ここでは農作業するのは女性の仕事なんです」と。そういえばさっき見せてもらった原住民の家にのんびりタバコを吸いながらわれ等を眺めていた男達、ウラヤマシー……

やがて我々はこの七仙嶺温泉を後に最後の宿泊地「三亜市」に向かって山を下る。この道中もそうであるがこの島にきて気のついたことは車窓から見る限りの郊外、田園風景はいたるところ何かしらの作物を栽培しており、今のわが国のように放棄された農地や、荒れ果てた里山の風景はどこにも見えない。それは御影石の杭に絡ませた胡椒であり、台湾人が経営するというバナナ、パイナップル園、その他マンゴー、カカオ、パパイヤ、レーシ、オレンジその他あらゆる果菜類、米、芋、等々それもよく手入れがなされておりじつに感心する。山に生えている雑木と思われた樹木も皆ゴムの木で樹液を子供らが集めていた。経済特区でもあり工場の立地禁止ということで、豊かになった本土へ高級農産品の産地として全島が潤っているような活気を感じさせる風景である。



日が西に沈みかけたころ 2 日に及ぶバスの旅の事故なし愛想なしの、国営バス会社の運ちゃんとも別

れ、今夜の宿「宝宏龍都大酒店」はかなり繁華な街なかにあった。建物は新しいがバスタブが付いていなかったり、隣で突貫と思われるビル建築の騒音、また時々ドーン、ドーンと花火みたいな大きな音。実は後に知ったことは当地には友人、親戚の誕生日に花火を打ち上げる習慣があるそうでいやはや。あしたゴルフ「海南島の戦い」があるというのに寝付られない。



翌 15 日、晴れたり曇ったり時々パラパラと軽い雨、それよりもやはり南の島は風が強い、風は誰に味方するのだろうか。亜龍湾ゴルフクラブは他と隔離された亜龍湾リゾート特区の中にあり周りには米国系の大ホテル、ヒルトン、マリオット、シェラトン、等を中心に数多くのホテルが集まっている。その中心にある国内でも有数と聞いてきた亜龍湾ゴルフクラブであったが正直コースメンテナンスがイマイチの感じで、タイ、グアム等の普通のコースと変わるところはない。もっともこのイマイチなところが、腕イマイチの自分にぴったり合っていたようで、ほんとゴルフは解らない。熾烈なタカイも無傷にて終了、あとはもう一泊して明朝帰国するのみ、省みればこの海南島という島、観光で垣間見ただけであるけれど、発展著しい中国の縮図を見たような気がする、これといった文化遺産や景勝地はないがサービス精神の向上とタイ並みの価格設定が図られれば、日本からの近さもあり(関空より三亜行きの JAL 便があるとか)、海南島ブームが来るかもしれない。いまは日本人が少ないからこそ来る邦人客も、やがては追い出される日が来るかも知れない。機会があればまた来てみたい島「海南島」であった。 おわり